

道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○兼題句「時雨」

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔特選〕

一一、目覚むれば夫癒えてあれ小夜時雨

伊藤 浩子

一九、秋時雨昨日生まれし子牛の目

渡瀬 教子

四八、お忍びの客送りけり初しぐれ

三島 芙蓉

・互選

〔一席〕

二〇、花嫁に大きくひらく時雨傘

鈴木 善一郎

〔二席〕

一九、秋時雨昨日生まれし子牛の目

渡瀬 教子

〔三席〕

一、片時雨野良着一撫でして去りぬ

北川 登志子



道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○当季雑詠句(秋・冬)

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔特選〕

一一、人亡くてむらさき淡き菊なます

伊藤 浩子

二〇、耳切つて匂ひだす和紙冬の雷

鈴木 善一郎

五六、墨書土器出土の丘や鳥渡る

小泉 孝子

・互選

〔一席〕

一一、目で追へば風となりゆく秋の蝶

田村 喜栄

〔二席〕

三二、乗鞍岳天にありけり稲架日和

桐山 久枝

〔三席〕

四四、夕暮れが追ひかけてくる秋じまひ

奥田 貴美子



道伝えの日 芭蕉忌句会 高校生の部 入賞句

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔飛驒神岡高等学校〕

入賞 草紅葉山からの風うずを巻く

一年 釜坂 実優

〃 校庭の日蔭に一人秋明菊

一年 茂利 亜未

〃 方言の抜けない教師秋うらら

三年 原田 兼肖

〔高山西高等学校〕

入賞 赤とんぼビー玉の目ですまし顔

二年 新家 千晶

〃 雪の中無音の様に孤独感

二年 滝村 涼

〃 虫の音に耳を澄まして名をあてる

三年 山田 彩花

